

神経科学Ⅲ

Neuroscience Ⅲ

単位数：5単位

○安井 幸彦	教授：神経形態学	山口 修平	教授：内科学第三
長井 篤	教授：臨床検査医学	横田 茂文	准教授：神経形態学
小野田慶一	講師：内科学第三	小黒 浩明	講師：神経内科

1. 科目の教育方針

高次脳機能の神経機構について、神経解剖学、神経病理学、神経心理学並びに臨床神経学の視点から学ぶとともに、高次脳機能障害の成因、治療および予知予防に関する理解を深める。さらに、これらの研究における最新の知見と動向についても学ぶ。

2. 教育目標

一般目標 general instructional objectives

- 1) 高次脳機能の解析法について理解する。
- 2) 高次脳機能の発現に関わる神経機構を多角的に捉えて理解する。
- 3) 高次脳機能障害の病態、診断、治療について理解する。

行動目標 specific behavioral objectives

- 1) 高次脳機能の研究に必要な解析法を把握し、応用できる。
- 2) 記憶や注意などの高次脳機能の神経機構を説明できる。
- 3) 高次脳機能障害の成因、病態、治療を神経基盤に基づいて説明できる。

3. 教育の方法、進め方

オムニバス方式を基本とする講義と演習により行う。

4. 成績評価の方法

出席状況とレポートにより総合的に評価する。

5. 使用テキスト・参考文献

- 1) Principles of Neural Science (5th edition), Eric R. Kandel et al., McGraw-Hill, 2012
- 2) Cognitive Neuroscience of Attention. Michael I. Posner, Guilford, 2011
- 3) A Clinical Guide to Transcranial Magnetic Stimulation, Paul E. Holtzheimer et al., Oxford University Press, 2014
- 4) カールソン神経科学テキスト脳と行動 (第4版)、泰羅・中村訳、丸善株式会社、2013
- 5) マウス胚の操作マニュアル (第3版)、Andras Nagyら著；山内一也ら訳、近代出版、2005
- 6) 神経細胞培養法、中川 八郎 (監修)、畠中 寛 (編集)、シュプリンガー・フェアラーク東京、1997

6. 教育内容

回	授業内容	担当
1	高次脳機能のマクロ的神経基盤 1	小野田慶一
2	高次脳機能のマクロ的神経基盤 2	小野田慶一
3	高次脳機能のミクロ的神経基盤 1	横田 茂文
4	高次脳機能のミクロ的神経基盤 2	横田 茂文
5	高次脳機能の神経基盤と機能形態学的解析 1	安井 幸彦
6	高次脳機能の神経基盤と機能形態学的解析 2	安井 幸彦
7	高次脳機能の神経基盤と機能形態学的解析 3	安井 幸彦
8	脳機能解析のための細胞培養とモデル動物 1	長井 篤
9	脳機能解析のための細胞培養とモデル動物 2	長井 篤
10	脳機能解析のための細胞培養とモデル動物 3	長井 篤
11	高次脳機能の非侵襲的解析と高次脳機能障害の診断 1	山口 修平
12	高次脳機能の非侵襲的解析と高次脳機能障害の診断 2	山口 修平
13	高次脳機能の非侵襲的解析と高次脳機能障害の診断 3	山口 修平
14	高次脳機能障害の治療と治癒 1	小黒 浩明
15	高次脳機能障害の治療と治癒 2	小黒 浩明